

旅人（バックパッカー）が書き、旅人が読む、旅人のための旅ライフファミリーペーパーマガジン

# Brali

Vol. 8



テーマ「大沈没」 / 旅先の変な日本語 /  
エッセイ「旅トキドキ・・・」 / 旅で使  
えるスマホアプリ / 私がフィリピン英語  
留学をする理由 / Chibirockの旅はくせもの  
HANGOVER in the WORLD / 旅人からの伝  
言「特集コーカサス」 / トホホな話 / 一  
本の糸で世界をつなぐチャリの旅 / 自炊  
派の手料理 / エッセイたびたべ / アジア  
漂流日記 他

Photo(C)ちょうよう





# Khaosan Tokyo Guest House

<http://www.khaosan-tokyo.com/ja/>

日本で海外の気分を楽しめる!

カオサン東京ゲストハウスは、東京、京都、福岡、別府に計8つの店舗を展開しています。  
国際交流をしたい! 安く快適に泊まりたい! 楽しくにぎやかに滞在したい方!  
観光、就職活動、一人旅等、あらゆるお客様に満足していただける宿泊施設です。



**TOKYO**

**NINJA**

1泊/2200円~

**ORIGINAL**

1泊/2000円~

**SAMURAI**

1泊/2500円~

**ANNEX & SMILE**

1泊/2000円~

**KABUKI**

1泊/3000円~

**KYOTO**

1泊/2000円~

**BEPPU**

1泊/2000円~

**FUKUOKA**

1泊/2400円~



# THIS IS YOUR BACKPACKER

旅人の数だけ違った  
スタイルがあっという。

これはあなたのバックパッカーライフです。

# LIFE.

バックパッカーで旅をするって特別なことですか？あなたは旅バカですか？  
もしあなたがクローゼットの中にあるバックパックに想いを馳せるなら「旅バカ」です。  
苦楽を共にしてきた数々の相棒を捨てられずにいるなら、間違いなく「旅バカ」です。

残念なことにそれは **不治の病** です。一度目は衝撃の印度  
2度目はうまくやれるナマステ 3度目はもう病気です！

バックパッカーの大好物, 最北端, 最南端, 最西端, 最東端, 赤道, 南北回帰線,  
洞窟, 離島, そして僻地, 辺境, 秘境, 越境…

**越境！** バックパッカーの妖しい与太話に散りばめられた真実、  
そして名もなき旅人たちが残し受け継いできた、

「金の北米、女の南米、  
数々のバックパッカー名言&格言。  
耐えてアフリカ、歴史のアジア、何もないのがヨーロッパ、

問題外のオセアニア」放浪 流浪 徘徊 ジプシー ノマド ボヘミアン etc...  
行った国の数はそんなに大切なのか？ 世界一周って何ですか？ あのガイドブックの裏話。

## J-Backpacker styleの系譜。

それは『何でも見てやろう』から始まった。結論のでないあの愛しきバックパッカー論の数々。  
「日本人宿/ガイドブック/節約ピンボー旅/夜のパトロール」カニ族全盛期から時は刻まれ、  
いまやバックパッカー3.0 爺ちゃんも両親も旅人の3世代目バックパッカー出現！  
スマホ, Wi-Fi, LCC, ナチュラルボーン…デジタルネイティブで、ソーシャル・ヒッピーな

こちら側の世界へようこそ。 **旅は変わっちゃまったのかい？**  
デジモンバックパッカーが闊歩する時代の到来。

**バックパッカー新聞、** 旅の環境や手法が変わっても、やっぱり旅は人  
**創刊です。** との出会いだ、やっぱり人が断然オモシロイ。  
わたしたちは、そんなバックパッカー現役OB/OG、  
そしてこれからバックパックを担いで旅に  
出る仲間のベースキャンプとなりたい。

Coming soon. 『バックパッカー新聞』 Published By Japan Backpackers Link 発行人 編集長 向井通浩

<http://www.mag2.com/m/0001521550.html>

# CONTENTS

---

## CONTENTS

- テーマ「大沈没」
- 脱出か、沈没か
- 旅先の変な日本語
- 私がフィリピン英語留学をする理由
- 旅で使えるスマホアプリ
- Chibirockの旅はくせもの
- HANGOVER in the WORLD
- 旅人からの伝言 「特集 コーカサス」
- コーカサス
- エッセイ「旅トキドキ・・・」
- トホホな話
- 一本の糸で世界をつなぐチャリの旅
- 自炊派の手料理「ロコモコ風おくら丼」
- エッセイたびたべ
- アジア漂流日記
- 作者・情報提供者一覧
- 編集後記
- 次号予告
- 記事募集

脱出か、沈没か



■Writer&Photographer

船橋証考

■Age

29

■Profile

銀行を退職後、世界一周を達成。もう一周しようかと準備中。

<https://www.facebook.com/masataka.funahashi>

Where the hell is Masa? 世界中でプラトーンしてきた

[http://youtu.be/NI6yA3\\_khiA](http://youtu.be/NI6yA3_khiA)

旅行中、もし滞在先で紛争や暴動・革命に巻き込まれたら、どう行動するのが正しいのだろうか？一刻も早くその地を離れようとするのが正解.....と考えるのが一般的だと思う。しかし私はそれが必ずしも正しいとは思わない。紛争なり、暴動なりが発生している地域から移動（脱出）するというのはその行為自体がリスクを伴う。車で移動中に、バスや電車を待つ間に、事件に巻き込まれることは充分にありうる。紛争地域内でも安全と思われる場所で騒ぎが収まるのを待つのも有効な手段ではないか。そんなことを考えながら沈没していた。革命中のエジプトで。

エジプトの旅はルクソールから始まった。ルクソールからアスワン、カイロと旅をし、ダハブにたどり着いた。シナイ半島の隅っこに位置するダハブ。物価は安く目の前に広がる紅海は透明度が高くダイビングに最適。海に入らなくても日がな一日海辺のカフェでシーシャを吸ってビールを飲んでるだけでトローンとした贅沢な一日が過ぎていく。有名な日本人宿もあるし、日本人旅行者も多い。安心感もあるし遊び相手にも困らない。

予定では3、4日での出発するつもりだったが、ダハブの魅力にすっかりハマリ、ダイビングの上級ライセンスを取得したり、シナイ山脈ツアーに参加したりとアレコレと理由をつけて滞在を引き伸ばしていた。

滞在一週間を過ぎて、そろそろ出発しようか、いやもう少しダハブを楽しみたい、と葛藤を抱

えだした頃に異変が始まった。夜中寝る前にメールを確認しようとPCを立ち上げたが、インターネットに接続できなかった。宿のWi-Fiには繋がったのだがダウンロードできない。その時は海外のWi-Fiなんてそんなもの、よくあることと諦めて布団に入った。翌朝になってもネットできず、宿のオーナーに問いただしたら革命が始まったことを聞かされた。ネットが繋がらないのはエジプト政府がプロバイダーにサービス停止を命じたためだった。

エジプト革命はSNS革命と言われた通り、Facebookやtwitterの果たした役割が大きい。ネット上のコミュニティを利用して現実でのデモや集会を煽動。革命を押し進めた。ムバラク政権はそうはさせじとインターネット自体を使えないようにしてしまったのだ。

ネットが封鎖されるなんて余程のことだ。TVでBBCやアルジャジーラを見ると、カイロやアレキサンドリアでは暴動が発生しているとのこと。何日も前から情勢不安を伝えていたらしいが、ダハブのとろーんとした日常と、ネットでいつも見ていた日本のニュースサイトはそんなことは一切伝えてくれなかった。

今後のことを宿泊者と話し合った。ダハブからエジプトを脱出するには車で2時間ほどのヌエバという街まで行き、国際フェリーでヨルダンに出国するのが一番現実的だ。しかし移動するにも不安がある。ヌエバに移動するまでに、ダハブの街を出る時とヌエバの街に入る時に検問を通らなければならない。この微妙な情勢下、革命を阻止しようとして戦っているエジプト軍が実施している検問を通過しようとするのはそれだけでリスクなことだ。道中やフェリーを待つ間にデモや暴動に遭遇する可能性もある。また、難民の流入を恐れたヨルダンがフェリーを停止してしまうことも考えられた。もしそうなったら見知らぬヌエバの街で立ち往生することもありうる。「if」を考え出したらキリがなかった。

かといってダハブに留まることにもデモや暴動のリスクはある。脱出するか、留まるか、どちらかを選択するしかない。何人かの宿泊者はすぐに出発した。

悩みに悩んだが、私は留まることを選択した。ダハブは政治的にはなんら重要性のない外国人向けリゾートである。ここでデモをしても意味がなく、暴力沙汰には巻き込まれないだろうと考えた。もちろん不安はあったが、その一方でダハブに留まることを喜んでいる自分もいた。



留まると決めたからには万一の事態に備えねばならない。水や保存の利く食品を買い込み、米ドルを引き出せるATMを見つけ、ドルキャッシュを多めに確保した。貴重品の隠し場所を確認した。が、それ以外に特に何かをしたわけではない。滞在当初と同じように海辺でビールを飲み、カフェでシーシャを吸ってまったり過ごした。



街の様子も特に変わりはない。レストランやカフェは通常通り営業され、土産屋に行くといつも通りボッタクリ価格を吹っかけられた。ネットが止まった2日後にはダイビングに行った。紅海はどこまでも見渡せるんじゃないかと思えるほどの透明度で歓迎してくれた。

TVに映しだされるカイロやアレクサンドリアの血なまぐさい映像が遠い他国の出来事のように思えた。革命中の国に滞在しているという危機意識はシーシャの煙と共に消えていった。危機回避・自衛のための滞在ではなく、単なる沈没になっていた。



そんな一週間を過ごした頃、燃料がヤバイという噂を聞いた。革命の影響で物資の輸送が止まっており、ガソリンが底を付くかもしれないとのこと。ということは食料も枯渇するのでは？食料がなくなれば略奪が発生するかもしれない。危機意識が復活した。これ以上の滞在は危ない。ああ、でももっとここに居たい。

渋々ながらも出国することに決めた。宿に残っていた日本人たちとヌエバに向かうことにした。宿がワゴン車をチャーターしてくれた。ダハブの街を走り去るときの「後ろ髪引かれる感」は今でも忘れられない。

街の検問を突破した。国際フェリーは平常通り動いていた。そして噂で聞いた通り出発時刻を大幅に遅れたが出航した。船内で行われるイミグレーションも通過し夜遅くにヌエバの街に到着した。あっけなくヨルダンに脱出することができた。

結局ダハブでの日々は、端から見れば「革命にかこつけて滞在し、ダハブを満喫する沈没生活」として終わった。革命中の国での沈没、若干の後ろめたさが残っている。運が悪ければどうなっていたかはわからない。しかし、その時最善と思える選択をしたとしても、正しいかどうかは後になってからでしかわからない。結局運次第なのだ。だから、自分の選択は間違っていない。。たぶん。



<広告>



# MAISON D`HOTE AMANDE CHEZ NORIKO

「モロッコのグランド  
キャニオン」と呼ばれ  
るトドラ渓谷までのん  
びり徒歩30分で行ける  
日本人が経営するアッ  
トホームな宿。  
バルコニーからは一枚  
岩が眺められ、手前の  
畑にはアーモンドの  
木々が見え春にはサ  
クラのような花が咲き  
花吹雪を楽しむことが  
できる。

## ◆料金◆

宿泊代 70DH  
朝食 20DH  
夕食 50DH  
洗濯機使用料 10DH

## ◆設備◆

部屋数4室  
サロン  
大きめのバルコニー  
Wi-Fi  
シャワー室・トイレ共同

日本食もO・K

家庭的な  
小さな宿



## ◆住所・お問い合わせ◆

住所

Ait Ousalene Tizgui TINGHIR 45800 MARO

電話番号

+212(0)6 7040 4369

+212(0)6 5319 5219

モロッコ国内からは0653195219

E-MAIL

amande@hotmail.co.jp

詳しくはホームページで

<http://amandecheznoriko.web.fc2.com>



MOROCCO  
TODRA GORGE



日本語



旅先の

海外の旅先で見かける、どう見ても変な日本語。看板やメニュー、商品やチラシに至るまで。笑わせてくれる「変な日本語」をTwitterで集めて見ました。



とくにどこも日本語が間違ってるわけではありませんよ。間違っていないんですが、どこかなんだか可笑しい。  
沢井ブルースさん



## 소변기가 호소합니다.

사나이로 태어나서 훌리지 말아야  
할 것은 눈물만이 아니에요.  
조금만 더 앞으로 나오세요.



### 小便器が訴えます

男として生まれ、  
壊すことはいけないことは、  
涙を流すだけではない

소변기 울림

韓流トイレはハードボイルド。

「男として生まれ、壊すことはいけないことは、涙を流すだけではない」

ちなみにコレはソウルの黒豚サムギョプサル屋さんのトイレ。

つつさん <http://www.facebook.com/tsutsumi.hiroyuki.3>



## 돈미용



「どんかつ」って。しかもトンカツでもなくコロッケですからコレ!

[http://twitter.com/yoksal\\_mumrik](http://twitter.com/yoksal_mumrik)



## 私がフィリピン英語留学をする理由

---

### 私がフィリピン英語留学をする理由

#### ■Writer&Photographer

大谷 浩則

#### ■Age

29歳

#### ■Profile

猪突猛進のトイレットパッカー。現在世界2周目！フィリピン留学からスタート。

旅のPodcast配信しています！

Podcast:ウィーリーのバックパッカーラジオ 世界一周アワー

<http://tabitabi-podcast.com/sekai1/>

Blog:ウィーリー 海外放浪×地球一周×フィリピン留学 ~実況！旅人アワー~

<http://ameblo.jp/hero23/>

Twitter:@taniwheellie

皆さんこんにちは。フィリピン留学連載最終回です。

3か月のフィリピン留学はあっという間でした。そこで学んだこと・感じたことをお伝えします。

英語能力がほとんど伸びなかったことは前号でお話ししました。なんとももどかしい気持ちでいっぱいです。

卒業前最終週、先生に

「どうして英会話能力が伸びないのだろうか？」

と聞きました。先生たちの共通する回答は

「たった3か月で話せるようになるなら苦労はいらない。フィリピン人も第2言語として英語を学んできたが、幼いころから時間をかけてきている」

ということです。

勉強法を聞くと先生方は口をそろえて

「映画を英語で見る。音楽は英語。ニュースを英語で見る・聴く。これを継続すれば徐々に慣れるよ」

と言います。

じゃあフィリピン留学は何ですか？ という話ですが……。

さてフィリピン留学、巷で言われるような「広告展開」に惑わされてはいけません。個人差はあるとは思いますが「英語力が伸びた！」という人ばかりではないのは事実です。個人的な意見では「スピーキング」を伸ばすのであればフィリピン留学は最適だと思います。先生方もお話しするのは大好きです。しかし、リスニングやTOEICを伸ばしたい人や英語初心者にとっては不向きかもしれません。

リスニング・TOEICに関しては先生方が授業内容を嫌います。これらの授業時の先生のテンションはとても低いです。事実「スピーキング以外の授業はつまらない」という先生も多々います。

また、先生の教育方針は各自バラバラです。学校で方向性を定めていないのでどの先生に当たるかが勝負の分かれ目です。教育方法を知らない先生が教えるわけですからね。

教え方が下手な先生はたくさんいます。先生方の多くは「バイト」です。そのためか突然休んだり、辞めたりするケースも目立ちます。特に私の場合3か月で6人の先生が変わりました。学校始まって以来初らしいです。悲惨ですね 笑。

マンツーマン授業が売りのフィリピン留学で先生が頻繁に変わることは本当に有り得ないことです。マンツーマン授業の場合、人間関係がある程度構築されると授業の中身も濃くなってきます。先生との相性が合わない場合は先生を変えることもできます。ウマの合わない先生とマンツーマン授業するのは苦痛極まりないですよ。

次に留学中の反省をします。

私は当初1日9コマ授業を取っていましたが、それでは予復習が追いつきませんでした。

授業をたくさん取ればよいというわけではないですね。宿題もありますし、その日の授業で新しく習った表現を復習し、翌日の会話で使う方がよほど勉強になりそうです。また、自分が話したい表現を事前に調べておいて授業で使うべきだったと思います。先生によっては「間違った表現」を使っても指摘してくれない方もいます。

あらかじめ「準備」しておくことと、自分から「この表現はどうやって使えばよいか」聞くことが大切ですね。

次に自主学習についてです。寮生活ですので個室ではありません。同部屋の方がどういう人かで展開も変わってくるでしょう。

どこの国で留学しても同じだとは思いますが、一定の割合の学生は勉強していません。バーに行ったり、KTVに行ったりで授業に出ません。そういうマイナスな学生に影響されやすいのも留学の特徴でしょうか？ 私は誘いを断って部屋で勉強していましたが、断り続けると今度は「浮いた存在」になるのです。留学とは精神的に強くないとキツイなあと毎日感じました。私が通った学校は「韓国人資本」の学校でした。熱心に毎日勉強している学生は韓国人の中でも「仲間半端」にされていました。韓国の方たちは「仲間意識」「集団行動」が大好きなので孤独に勉強していた学生に感服です。



私が考える最大のポイントは「土日」にあると思います。3か月の留学期間中、約30日は土日祝日です。その時間をいかに過ごすのが大切でした。

最初のうちは得意の「一人旅」であちこち周っていました。これでは英語の勉強にはなりません。そこでフィリピン人の友達を作り、毎週末彼らと遊びました。会話はもちろん英語です。生きた英語に触れるいい機会です。

学校の先生は生徒のために分かりやすい英語を使います。そのため先生以外の方との会話が重要になってくるのです。

さて、どうやってフィリピン人の友達を作るか？ という話ですが、これは簡単です。いくつか例を挙げますね。

- ①学校の先生と仲良くなり誰かを紹介してもらう。
- ②カウチサーフィンを使い現地の方と交流する。
- ③日本人経営の組織（企業、NPO）等を訪れ、現地の方を紹介してもらう。

等々いろんな方法があります。私は②と③を用いて週末はなるべく現地の方と行動していました。

英語能力がほとんど伸びていない私がいうのは説得力がありませんが、英語を使う「積極性」だけは伸びたと思います。前回の世界一周時にはほとんど外国人と話さなかった訳ですから。

最後に私のフィリピン留学は終了しましたが、英語学習は終わりません。

むしろここからが本番です。継続的に勉強しなければフィリピンで費やした時間とお金は無駄になります。

英語能力が伸びなかったのは事実です。それを誤魔化すために「いい経験になった」とか「友達ができただけから良かった」とか言うつもりはありません。私個人的な話ですが、この後アフリカ縦断+オーストラリアワーホリが待っています。

通じなくてもめげずに英語使いますよ。

フィリピン留学をお考えの方はある程度「下調べ」をしてからご出発されることをお勧めします。他の国の方が向いているかもしれませんし、日本でも良いかもしれません。

3回に渡りお読みいただきありがとうございました。

## 旅で使えるスマホアプリ

### 旅のアプリ「星座表」



日本では見慣れている星空も、旅先では違って見えます。また、海外の田舎では、本当に素晴らしい星空を見ることがもできます。

しかしながら、「南半球に来たのに、南十字星がどれかわからない。」「あの輝いている星は何だ?」といったように、せっかくの機会を無駄にしかねません。



そんなときに活躍するのが「星座表」。

スマートフォンを夜空に掲げるだけで、GPS機能、コンパス機能、時間により、その先にどの星座があるかを、まるでプラネタリウムのように画面上で教えてくれます。

また、検索機能もあり、「惑星」「星」「星座」「銀河」がどの方角にあるかの検索もできて、利用の幅は広いです。

iPhoneでもandroid系のスマホでも利用可能です。

有料(250円)ですが、その価値はあるかと思えます。レビューでも高い評価を受けているようです。

海外に行く際には、スマートフォンにインストールしておいてください。



きっと役に立ちます。

記事提供

ワールドハッカー

元バックパッカー、現在は職業ハッカー。

ブログ『World Hacks!』にて海外旅行関連の情報を毎日発信しています。

<http://bit.ly/WorldHacks>

Brali Vol.1からVol.8まで8連続記事掲載情報・写真提供。

## Chibirockの旅はくせもの

---

《旅は体質をも変える。そして体型も。》

お腹デストロイヤー代表国、インド。そこでデストロイされるどころか、丸々太って帰国した人間の話を、いまだかつて聞いたことがあるだろうか？

わたしはある。というか、わたしだ。

もともと、世の中の食べ物のおよそ8割が嫌いだった。

とにかく野菜という野菜が嫌いで、子供の頃から口内炎ができたり肌にブツブツができると、母親はほれ見たことかと「野菜を食べないからだよ！」と、ケンケン言う。そんな青臭いもん食えるか。それよりお肉をおくれ。

それに加えての食わず嫌い。自分のデータベースにない食べ物はまず拒否する仕様。そもそもデータベースが貧弱すぎるので、ほとんどの見慣れないものはまず食べない。なにこの香辛料。なにこのキノコ。それより菓子パンをおくれ。

日本にいるぶんにはよかった。しかし海外へ旅行をするようになると、この偏食がおおいに障害となった。当たり前だが見慣れない食べ物のオンパレードで、特にしばしば出かけるアジアでは、多種多様な香辛料と野菜が猛威を振るう。結局食べられるのはチャーハンと外国人向けのカフェの飯、ファストフードくらいなものであって、つまり高くつく。

なんかすごめんどくせ！！

つことで、めんどくささ解消のために好き嫌いをなくすことにした。食わず嫌いなんて気持ちひとつ変えりゃいいだけで、食べてみたらあら意外といける、とほぼ楽々クリア。それどころか体質的にムリと思われていた辛いものとコーヒーまでクリア。コーヒーに関しては、フランスでお金がなくて割高なミルク入りコーヒーが飲めなかった、というひもじい懐事情のたまものである。貧乏人には選択肢がないのだ。しまいには、死ぬまで必要ないと思っていた酒にまで開眼し、おかげさまでもともと自由な生活に輪をかけて自由に愉快的な日々を送れている。「ちびろっく・改」と名乗るべきほどの変貌を遂げたのである。

このように、味覚のストライクゾーンを355度ほどに広げ、また胃腸の強さが災いしたのか、中国、チベット、ネパール、インドと、衛生状態だいぶ俗悪な旅で、まさかの5キロ増。旦那と父親は変わり果てたちびろっくの姿に相当びっくり返ったらしく、未だに当時の心情をしばしば語る。



帰国から1年ちょい、今度は逆に食べるという行為自体がめんどくさくなり、インド帰国時からまさかの9キロ減。おかげで胃が相当縮んだか、ランチで出る食べ物一人前の、約2割量しか食べられなくなってしまった。と、いうことは、食天国・香港やなんでも日本の数倍・欧米などを一人旅した日には、それこそスーパーやパン屋のお世話になるしかないじゃない！

なんかすごいめんどくせ！！



最高潮54キロ@Goa



絶好調45キロ@高円寺

■Writer&Photographer

Chibirock

■Age

33歳

■Profile

Sigur RosとBeirut巔頂のメタル好きバックパッカー。チベット越えてインドで太って台湾の農家で大豆を選り分けたり。最近結婚したが放浪やめる気毛頭無し。

<http://blog.chibirock.net/>

## HANGOVER in the WORLD

---

### 呑んだくれの飲めないアジアの酒事情

旅と酒はやめらんない、ちゃらいアラフォーことチャラフォーBrali編集人くりはらのぶゆきです。何で編集人が書いてるのかって？ そりゃ、誰も書いてくれないからですよ～。僕より酒好きな人を募集してますから頼みますよ、ホントにい～。

イランからインドに入ったことある酒好きな方ならわかりますが、イランは飲酒や酒の持ち込みが禁止されているので酒が飲めなくて、インドに入ると無性に酒が飲みたくなるんですよ。インドでは公然と酒が売られてますが、酒屋の数が少ないためか単純にインド人が多すぎるのか非常に繁盛してるんですよ。

もうこっちはビールが飲みたいのに酒屋には酒好きのインド人が壁を作っているんですよ。目の前はインドインドインドですよ。そのインドの壁を女子レスリング金メダリスト吉田沙保里選手並にタックルを繰り返しビールを買い付けるんですよ。戦いの後は僕の体臭もインドですからね。酒買うだけで色んな汗かきますよホントに。

店や地域によってはお店の前面が全て金網になってるんで、この場合は長蛇の列に並ばなきゃならないんですよ。そういうところで売ってるビールは「国外持ち出し禁止」なんてラベルが貼ってて次の日は軽く頭が痛かったりするんですよ。何入ってるんでしょうね～？ こういうのサプライズ？ とかって言うんですかね？



軽く頭が痛くなると言えば、マレーシアはクアラルンプールで買った「PANDA」ビール。アカラーの缶にパンダのイラストがあって可愛んですよ～。けどアルコール度数が12%と可愛くない、いや強烈なストロングビールなんです。ストロングビールと言えばベルギーあたりで相当鍛えたものなんですが、この可愛い「PANDA」ビールは、初めて最後まで飲みきることができませんでした。やっぱり可愛くないですよええ～。





飲めないといえば、ラオスのルアンパバーンからメコンをボートでちょっと上ったところに何やらドラム缶と土瓶みたいなのがくっついた設備があったんですよ。その横には露店みたいなのがあって何やらガラス瓶が並んで覗き込むと透明な液体の中にサソリやら蛇やら入った物が売ってるんですよ。聞くとさっきのドラム缶と土瓶の装置は酒（焼酎）を蒸留する装置でつまりは酒製造マシンだということですね。わざわざベニヤ板にマシンの仕組みみたいなのをマジックで書いてあるんですよ。

え？ 買ったかって？ ぼ、僕は酒飲みですからね。酒大好きですからね。尊敬する人は吉田類さんですよ。もちろん買いましたよ、友達のおみやげに。友達は今も元気です。



誰か次号書いてくださいよ～。ホントに頼みますよ。

## コーカサス



### ■Writer&Photographer

大谷 浩則

### ■Age

29歳

### ■Profile

猪突猛進のトイレットパッカー。現在世界2周目！フィリピン留学からスタート。旅のPodcast配信しています！

Podcast:ウィーリーのバックパッカーラジオ 世界一周アワー

<http://tabitabi-podcast.com/sekai1/>

Blog:ウィーリー 海外放浪×地球一周×フィリピン留学 ~実況！旅人アワー~

<http://ameblo.jp/hero23/>

Twitter:@taniwheelie

「コーカサス」と聞いただけでどこか旅情にかられないだろうか。

一般にはあまり知られていない地域だが魅力が溢れすぎている。個人的には特にグルジア・アルメニアが面白い。

言葉は悪いが旧ソ連の「暗い雰囲気」と「殺伐した風景」、そこにある大自然と、文明。



私はトルコのトラブゾンからドルムシュ（トルコの乗り合いバン）でグルジアに入国した。入



国した瞬間にがらりと雰囲気が変わったことを覚えている。非常に印象深い。

トルコは緩いとはいえイスラム教国。グルジアはグルジア正教。グルジア入国後、酒を販売するショップが目につき、人々の図体も大きいように感じた。そして何よりも先ほどから言っているが、「雰囲気が暗い」のだ。トルコの陽気さはそこにはない。どす黒い街の雰囲気がバトゥミに広がっていた。バトゥミで無駄に1時間ほど停車した後、120%乗車率のマルシュルートカ（グルジアの乗り合いバン）に乗り換え首都トビリシに向かう。時間は深夜2時。グルジアの深夜は心が沈むような感じがして非常に憂鬱だ。

乗り合いバンが止まるたびに集まる野犬。そして無駄に吠え追いかけてくる奴らは非常に恐ろしい。トビリシ到着は早朝5時半。とりあえず鉄道駅に向かおうとするも、地図もないので分からない。仕方なくタクシーを使うが、運転手が英語を全く理解できず（数字さえも知らない）、ジェスチャーで目的地を伝える。大げさなジェスチャーで相手は「鉄道駅」を理解し、満面の笑顔だ。

コーカサスでは「民泊」がメインだ。民家のリビング等にベッドを置いて旅行者をもてなしてくれる。

トビリシでは旅人の間では有名な「ネリ・ダリの家」に泊まった。リビングにはピアノがあり、絵画が飾られており、民泊の雰囲気はバッチリだ。キッチンも使えた。ただ、トイレトペーパーが新聞紙だったのが非常に気になった。

「ネリ・ダリの家」付近には野犬が多く、たまに襲われる旅人も聞いていた。実際周囲にはいかにも狂犬病を患っているだろう野犬がウロウロしている。犬嫌いの私にとって不快だったことは間違いない。

日中トビリシ市内を散策したが、晴れているのにも関わらず「街の雰囲気が暗い」と感じたのは私だけだろうか。なんでこうも殺伐としているのだろうか。これは説明しがたい。ぜひ一度訪れてみてほしい。



グルジアのハイライトは「カズベキ」だ。トビリシからマルシュルートカで4時間ほどの山岳地方だ。「グルジア軍用道路」というトビリシから北オセチア共和国の首都ウラジカフカスに向かう道路なのだが、その名前からは想像がつかないほどの大自然の中をマルシュルートカは進む。カズベキ山は標高5000Mを超え、曇りがちの天気だが時折見せるその雄大な風景に唖然とした。カズベキ村から北オセチア共和国の国境まで連れて行ってもらうとさらに面白い。「ここを超えると北オセチア共和国、しかし旅行者は入ることができない」

この状況がさらに旅情を高めてくれる。またこの国境までの景色が最高にきれいだ。この辺一帯をダリアリ溪谷というのだが、私の中では1番最高の部類に入る溪谷だ。



一方アルメニアだが、アルメニア教会を中心に回ったが、この教会が美しい。

世界遺産に登録されているエチミアジン教会をはじめとして、セヴァン湖ほとりにある教会群、特に岩肌にくっつくように存在する世界遺産ゲガルト修道院は一見の価値がある。

首都エレバンでは「リダの家」に泊まった。こちらもまた旅行者には有名だ。ホテルではなく、こうして民泊できるのもコーカサスの魅力だ。人々の生活が垣間見れるのはとてもよい経験だと思う。

グルジアのポチから船でウクライナのオデッサに渡った。これが私のコーカサスの最後だ。

この海路もまた面白い。乗船者はほぼ「船乗り」で、表記もすべてロシア語。異様な環境下で2泊3日船で過ごす。こんな体験もできるのも長期旅行+コーカサスならではの。

コーカサス地方はまだまだ観光地化されていないエリアである。

発展していない分だけ面白さがある。少し視線をコーカサスに向けて来夏あたりにでも訪れてほしい。最高の経験ができると思う。

## エッセイ「旅トキドキ・・・」

---

最高に過酷だった旅。

鈴木モト

男性 静岡県出身。高校時代、陸上でインターハイ出場。ベストタイム10秒84 (100M)  
美容師免許、管理美容師免許取得。

MIXIコミュニティー、「鈴木が書く世界一周旅行記が好きだ」2800人突破。

[http://mixi.jp/view\\_community.pl?id=3502328](http://mixi.jp/view_community.pl?id=3502328)

現在、一眼レフカメラ片手に世界を放浪中。

ブログ「地球の迷い方。～世界放浪編～」

<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>

ねえ、知ってる？

世界で一番高い所にある村って。

ロンリープラネットっていう、英語のガイドブックによると、  
ちゃんと車が走れる道があって、電気が来てる村って条件だと、標高4 2 0 6 mの所に村が存在するんだってー。

標高4 2 0 6 m。

富士山よりも高い所にある村。何か惹かれるよね？

だから行ってみた。昨年12月に。4 2 0 6 mの世界で一番高い所にある村に。

地元民と混じり、おんぼろのジープに乗り、6 0 0 0 m級の山々をいくつも超えた。

空まで続いている様な、曲がりくねった凸凹な斜面を、  
綿菓子のように、フワフワと浮かんでる雲を真横に見ながら、  
ヒマラヤ山脈の山々をいくつも超えた。





そして、高山病の頭痛と息苦しさにやられながら、耐える事数十時間。

何とかたどり着いたお目当ての村、インドの山奥の山奥、チベット国境近くのキッバル村。

世界で一番高い所にある村なのに、日本のガイドブックには、地図上にすら名前が表記されていない、とってもとってもマイナーな村。

草木の無い灰色の大地の上に、ぽつりぽつりと、石で組み立てられた白いシンプルな作りの家が、50軒ほどひっそりと並び、  
垢だらけの子供達が、砂埃を巻き上げながら、元気に走り回ってた。



そんな辺境の地に、オフシーズンの12月（冬）の時期に行ったもんだから、村の人達が驚いてた。

『こんな時期に何で来た?? 村に観光客なんてだーれも来てないぞ』って。ははっ。



村にホテルが存在しないので、民家にホームステイさせてもらったけど、ま〜〜〜〜、何もない村だった。



高地すぎて緑が無いから、何だか地獄みたいな場所。

だけど、

空気が薄いせいで、空が澄んでて、  
地平線まで何処までも、かすみもなく、はっきりと見渡せて。  
ありえない位、空が真っ青で。

そして、遠くのものがはっきり見えすぎるもんだから、距離感がわからなくなった。おかしくなった。



1メートル先の地面に、爪楊枝がささってと思ったら、数キロ先の電柱だった。

1メートル先の地面に、石ころが沢山転がってと思ったら、数キロ先に居る羊の群れだった。

必要な物は現地で買えばいいしょー！ って、お気楽に来たんだけど、村にはレストランはおろか、小さな売店すら存在しないかった。

ビスケットはおろか、パサパサのパンすら買えなかった。

村に『物』が無いから、俺が持ってたペットボトルに、ポンプ式の水道で水を汲んで、水筒代わりに大切に大切に使ってた。

そして夜はお決まりの停電。

停電する事は、すでに生活の一部だったけど、夜はメチャメチャ冷えた。笑っちゃう位寒い!!

4206mの高地、そして真冬の12月。

そりゃー寒いわな。

そんな中俺は、星の写真を撮りたくて、

真夜中、口に懐中電灯をくわえ、ハシゴを使い、ホームステイ先の屋上に1人上がった。

マイナス20度の中、俺の足元はサンダルだったけど、

(サンダルしか持ってなかった。笑)

標高4200mからみる夜空は、笑っちゃう位ヤバかった。

草木が生える事ができる、森林限界(2600m位)を軽く超えているこのキッバル村。

宿の屋上から見下ろすその、壮大な大地は

砂漠の様な、乾いた何も無い土色の景色。

まるで月面の様な、世界の果ての様な、他の惑星の様な.....異世界。

そして村は停電。

そんな状況でみる、プラネタリウム顔負けの夜空。



ほんとに寒くて、マジで凍傷になりそうだったけど  
マジで感動したな。

そんなくそ寒い高地だったけど、部屋にストーブすらなかったよ。

冷凍されてるマグロになった気分だった。

そして寒さの為、パソコンが動かなくなった。

石でできた床の上に置いといたせいかな？ 冷えすぎちゃったみたい。

キッバル村にもし行くなら、防寒対策は完璧にしていきましょうー!!



最後の写真は、キッバル村の宿の屋上から凍えながら撮った1枚。



## 今だから笑える、本当にあったトホホな話

---

旅をしていると、日本ではとてもありえない事に遭遇したりする。

そして、時に泣き、怒り、落胆し、呆然とし、赤面し・・・。

そんな旅の猛者たちのトホホな話をTwitterで集めました。

ペルーとコロンビアとブラジルの国境のあたり、アマゾン川の畔で、使ってたゆうちょカードが郵政民営化によって使えなくなったと知った時は、途方にくれました。

<http://twitter.com/aoyankiio>

乗ろうとしたバスに乗って待ってたら雨が酷いから、今日は行くのやめたって言われたことです！（三日ほど前）

[http://twitter.com/ponn\\_kazuya](http://twitter.com/ponn_kazuya)

オリンピックが終了したばかりの某国のレストランで、高校生の頃「No colored!!」と言われて入れてもらえませんでした... 初めての事で、さすがにビックリしましたいまだにヨーロッパ嫌いな理由...

<http://twitter.com/beeryakinikubee>

nzの南島ドライブ中にパンクして事故って、通りすがりの家族に助けてもらった事があります。さらにその家族に一泊させてもらいました.....

<http://twitter.com/a3yk426>

## 一本の糸で世界をつなぐチャリの旅

---

中央アジア突入。波乱の幕開け。



功：中—央—ア—ジ—ア—！！

儀：この旅で一番謎に満ちていて、一番楽しみにしていた地域。

功：期待を裏切らなかった……

儀：というか超えていた。全てを。

功：しかし、中央アジアですか……何処ですかそれ、そもそも??

儀：そうなりますね（笑）

功：中央アジアと言うのは、カスピ海の東から中国との国境までの、ソ連解体と共に誕生した国々を指します。大まかには。〇〇スタンという国の多くはこの中央アジアに分類されるね。

儀：僕らが通ったのは、その中でもカザフスタンとウズベキスタン。

功：カザフstanはロシアの真南、ユーラシア大陸のお臍に位置し、ちょうど20年前、ソ連解体と共に独立した国です。

儀：僕らが通ったときも人が住む町では、独立20周年おめでとう！ 的なフラッグがそこかしこにはためいていたよね！

功：うん、まだまだ誕生して間もない国です。

儀：そしてウズベキstanは、カザフに抱かれるようにその下に位置しています。

功：さて、中央アジア1ヶ国目のカザフstan、実はめちゃうちゃでかい！！

儀：だいたいオーストラリア大陸と同じくらい、と言えばイメージがわきますか？

功：今回実質走行したのはたった500kmでしたが。（笑）

儀：しかしそこは中央アジア。期待通り……凄まじかった。

功：なんせ、99%未舗装の道だったからね！！

儀：しかもそれは、日本なら農道にすらならないような「これホントに道か?!」という粗悪なもの。

功：砂で埋もれていたり、50cmくらいの段差があったり……

儀：何十kmも自転車を押して進んだこともあったね。

功：10000km何事もなかったキャリアが弾け飛んだり、10000km無傷だったタイヤがパンクしたり……

儀：横を通り過ぎていく超長距離トラックもみんなギーギー悲鳴を上げながら走っていたね。

功：みんな超のろのろ運転。それでもみんな今にも壊れそうだった。



儀：てかよく壊れてたよね（笑） 道ばたにトラックを止め、車輪を外したり、ハッチを開けて中をいじくり回したりしている運転手と沢山遭遇しました。

功：この道がカザフの主要な国道だというから呆れる。

儀：僕らも超のろのろ運転。1時間で10km進めばいいほう。

功：お尻は痛いし、肩はバキバキだし、目は極度に疲れるし、進まないし、最悪。

儀：……いや加藤さん、むしろ最高？

功：今になればね。（笑） 砂漠を走っているときはそれを楽しむなど、いっさい考えが浮かばなかった。

儀：やりようのない不安や、進まないいだちを、「この経験は後々絶対オイシイ」と自分自身に言い聞かせ押さえていたよね。



功：間違いない。（笑） そしてこの間、大自然を五感、いや、六感をフルに使って感じたこともまた確かだよ。人工物が見渡す限り何もない経験はなかなかできない。

儀：カザフに到着して突如、目の前に広がった地平線は本当に圧巻でした。

功：その地平線が、360度、どこまでもどこまでも続いているんだから驚き！

儀：500km続いていたからね。

功：あまりのスケールのでかさに圧倒され、ただただ感動していました！

儀：中でもダントツ感動したのが、日の出と夕暮れ。

功：文字通り、息をのむ絶景。しばしすべてを忘れその美しさに魅入りました。

儀：あんな空の色、日本じゃ見たことない！

功：そして日が落ちた後現れる満天の星空。これもまた贅沢な眺めでしたね！！

儀：なんせ周囲には町もない、村もない、もちろん明かりはゼロ。天体観測にはこの上ない環境！！

功：そんな星空に抱かれ眠る毎晩。ソー！WONDERFUL!!!!



Connection of the Children

<http://coccoccoc.web.fc2.com>

田澤儀高

横浜国立大学大学院音楽教育専攻一年。ピアノと自転車旅が大好き。小さい頃からチャリで遠出するのが趣味。将来は学校の先生になって音楽の素晴らしさを子どもに伝えたい。そしてユーラシア横断の旅で感じてきたことも。

加藤功甫

横浜国立大学大学院一年休学中。保健体育科専攻。出会いに感謝し、日々邁進中！つながるって楽しい！！自転車旅/ボルダリング/生花/写真/読書/料理...



# 加藤功甫 田澤儀高 共著

## ユーラシア大陸横断自転車旅 2万キロの旅

20,000km Bicycle Trip Across The Eurasian Continent

加藤功甫 / 田澤儀高 共著

サバイバルな自転車の旅は  
奇跡の連続!!

11月  
31日  
20,194km  
の旅!

ホルトガルから日本へ  
トライアスロンを楽しむ  
大学院生2人が繰り広げる

十一月、31カ国、20000  
kmのユーラシア大陸横断の旅  
は奇跡の連続。  
その中で実施してきた世界の  
子どもを繋げるプロジェクト。  
1本の糸で世界の子どもを繋  
いだ結果は…



小説Braviに連載中の彼らが成し遂げた長い道のり。ぜひご覧ください。



## 自炊派の手料理

---

旅に出たら現地の料理を食すに限る。でも物価の高い街での長めの滞在となると、さすがに外食ばかりはフトコロに堪える。そんな時は自炊。簡単で安くて美味しい自炊派の手料理をご紹介します。

### 「ロコモコ風おくら丼」

味付けは醤油のみ。素材の味を生かしたお手軽どんぶり。



#### 材料（一人前）

- オクラ・・・・・・・・４本
- お米・・・・・・・・1/2合
- 卵・・・・・・・・１個
- ミニトマト・・・・１個
- ツナ・・・・・・・・1/4缶
  
- 醤油・・・・・・・・大さじ１杯
- 塩・・・・・・・・少々
- 油・・・・・・・・少々

#### 作り方

- ①まずはお米を炊きます。
- ②沸騰したお湯に塩を一つまみ入れてオクラを軽く茹でます。茹でたオクラは細かく切って醤油と一緒に混ぜておきましょう。
- ③目玉焼きを作ります。  
(冷えた油を冷えたフライパンに入れてから卵を入れて火をつけると綺麗な目玉焼きが作れます)
- ④後はどんぶりにご飯を入れ、目玉焼き、オクラ、トマト、ツナを盛り付けて完成！！



オクラと卵だけでも美味しいので、好きなものをトッピングするのも楽しいですよ。

記事提供

谷津 達観(やつ たっかん)

料理の道を歩んでいたが、突然夫婦で403日間、35ヶ国を周る世界一周の旅に！！

日本に帰ってきたかと思えば今度は仕事で香港在住決定！！

「家から徒歩一年☆たっかんとじんみの2人世界一周」

<http://ameblo.jp/worldjourney2010>

記事提供

沢井ブルース

旅する武術家 空手では国際大会優勝経験アリ

現在は東南アジアを中心に放浪及び武者修行中

へたくソな文章ではありますが、気楽に読んでもらってBraliの中の「箸休め」的な存在になれたらなーと思ってます

人生、酒と泪と旅と武術 梵我一如 覚有情

はあっ……。はあっ……。

僕はその時ヤンゴンの路上で息を切らせ、足をひきずるようにして歩いていた。

身体が重い。一步足を踏み出すごとに息切れがするほどだ。



おそらく昨日の屋台のチャーハンにあたったのだろう……。古い油の味がしたからな……。昨夜は嘔吐&下痢で大変だった。

おかげで今日別の街に行く為に買ったバスチケットもパーだ。

いや、もしかするとあたったのは、ペットボトル入りのジュースかもしれないな。普通だとペットボトル入りの飲料が腐るなんて考えられないが、停電が日常茶飯事なミャンマーでは、冷蔵庫で冷やされる→停電で冷蔵庫が止まり常温に戻る→電気復旧後また冷える……の繰り返しでは腐ったりすることだってあるだろう。

ともかくにも、昨夜から何も胃に入れてないので何かしら補給しなくては身体がもたない。

そう思い重たい身体をひきずりながら歩き、やっと見つけて入った店だが、なんとそこは酒屋だった。

「オー！ハロー！ あんたは日本人？ それとも韓国人かい？」



やたら明るく調子のいいオヤジが奥から出てくる。

「で、何が欲しい？ ビールかい？」

いや、だから俺はいま体調が滅茶苦茶悪くて、ビール飲んでる場合じゃないっての！

「下痢と嘔吐で昨日から何も飲んでないし食べてないから、何か胃にやさしいものをくれ」

と言うと、オヤジは目を丸くして

「じゃあビールだな！」

と言うではないか！

はあっ？ 何を言ってんだこのオヤジは？ と思っているとオヤジはこう続ける。

「だってさ～そんな状態だったら胃をアルコールで消毒しなきゃいけないだろ？ だからやっぱりビールだな！」

そう言うとおヤジは黄色い歯をむき出しにしてニカーッと笑った。

その笑顔がなんというか、例えるならそこにパッとひまわりが咲いたような本当にいい笑顔だったので、その笑顔につられてなんとなくビールを買ってしまった……。

350ミリリットル缶のマンマービール800チャット、日本円にして約80円。ビールを買って外に出ようとするとおヤジが

「オイ！ 日本人！」

と僕を呼ぶ。

なんだ？ と振り返ると

「このアイスクリームも美味いから買ってけよ！」

とアイスクリームもなかば押し売りされた。

アイスクリームとビールという、あり得ない組み合わせのものを袋に入れてゲストハウスに戻る。しかしアイスは食えるとしても、ビールは無理だよな……。ゲストハウスの誰かにでもあげるとするかな。

だが、マンマーの暑さのなか、細かい汗のかいた緑色のマンマービールの缶をじーっと見ていると、少しくらい飲んでも、大丈夫かな？ って気になってきた。

プルタブを引きプシュッ！ と缶を開け、おそるおそると一口飲む。

んんっ？ イケルかな……？

黄金色の液体が昨日から何も飲んでない僕の乾いた喉を潤す。一口が二口、二口が三口に

なり.....結局全部を飲みきってしまった。

その後は当然のように豪雨のような下痢になってしまったけど、あのオヤジの笑顔に免じて許してやるとするかな。



### ■Writer & Photographer

Chibirock

### ■Age

33歳

### ■Profile

Sigur RosとBeirut巔頂のメタル好きバックパッカー。  
チベット越えてインドで太って台湾の農家で大豆を  
選り分けたり。最近結婚したが放浪やめる気毛頭無し。

<http://blog.chibirock.net/>

まあそんなこんなで、わたしは無事、ネパールまでたどり着いたわけでありませう。

国境ラインを越えた我々は振り返って、そしてこの1ヶ月ちょいを振り返って、「バーカ、バーカ！」とあちら側に罵声を浴びせてみた。まあいろいろあったけど、中国は好きなほうだと思う。またね、中国。でも、バーカ！

中国と接してるとは夢にも思えないほどにユルすぎるイミグレを通過して安心、そんなネパール滞在も、はや1週間。

ヒデ君と俊さんは2週間近くのトレッキングに出かけて、カズ君はモワモワしていて、なので今は、友達の友達の友達のカトマンズ旅人の溜まり場、タメル地区から徒歩すぐのところで、こうしてのんきにブログを書く午後を過ごしているという次第です。



友達の友達の友達の友達の友達が、今ドレッドになろうとしており、友達の友達の友達の……は昼寝をしている、そして外からは何かを切実に訴える声が響いていて、そんなカトマンズの昼下がりは異様です。

そんな人との出会いを重ねに重ねて、「困ったらまずあそこ！」と、地元の人から絶大な信頼を得ている爺ちゃんに、謁見することになりました。

占い師かと思いきや、病気や怪我をした時にも頼られるらしく、イージーゴーイングが売りのネパールにおいて飯を食べる時間もないほどの忙しさらしい。Perfumeか！

おなじみになってきた路地をひょいと曲がって、ニワトリを巧みによけて、見えた爺ちゃんの豪邸。



入り口小さ！！

2枚の板と窪みだけのトイレを横目に、真っ暗な中、階段をミシミシいわして3階まで上りますと、女性達がぎゅうぎゅうに詰めこまってる小部屋があります。ここが爺ちゃん家。

ニコニコしながら「ナマステ〜」と挨拶する爺ちゃんは、まったくをもって普通のネパール人の爺ちゃん、部屋はどうお世辞を言っても薄暗い小部屋、です。



病院に連れてった方がいいんじゃないかと口出ししたくなる、グッタリとした子供を連れてお母さんが先客。爺ちゃんは、呪文みたいのを唱えながら、火をつけたこよりのようなものを子供の顔の前でクルクルやっている。その間、すぐ隣で待ってるおばちゃんは大声で携帯でしゃべってみたり、ドッと笑いがおこってみたり、しまいには爺ちゃんに話しかけたり……。爺ちゃんは怒涛のインターセプトを気にする様子もなく、一連の作業を続ける。いいんだ、そんなんで。



指をパチパチとやると終わりの合図。サリーの懐から財布を出して、50ルピーだかなんだかの金をサッと渡す。金額は特に決まっていらないらしい。

足が痛いとか、働かない旦那の対処だとか、さまざまな悩みに対応する爺ちゃんのところには、ひっきりなしに人が訪れる。我々は急いでもないし、家も近いし、ガンガン後回しにされるが、まあいい。我々には時間がたくさんあるのだ。

やがて、友達の日本語学校の生徒のスミちゃんがやってきた。彼氏に100万貸したが返してもらえず、ここに相談しにきたらすぐに月々5万で返済するという話がまとまったらしい。これがまた日本語もネパール語もしゃべるしゃべる。我々、周りの客、他の客対応中の爺ちゃんにも。

「なんで昨日はいなかったの？ 午後にはいるって話だったのに、なんでいなかったのか理由説明してよね～！（笑）」

このスミちゃんの激烈トークがなければもっとスムーズに客がはける気がしないでもなかったが、そんなやり取りは愉快だったのでよしとする。

爺ちゃんが茶を飲みに出かけたタイミングで、うちらもチャイを飲みにちよい出た。戻って、後から来たスミちゃんの妹の、仕事しない旦那の話ののちに、友達の番。ネパール人との結婚はうまくいかない。あと1年はネパールにいることになる……。

そしてあたしの番。50ルピーを渡すと、袋から米をつかむように言われて、そのとおりにし、ザッとザルにあける。名前と歳を聞きながら、爺ちゃんは米を2粒ずつくらいに分けていく。

「爺ちゃん、あたし日本帰ったらどうなりますかしら」

「そうさね、日本帰っても仕事は見つからんし日本にはもう住めないよ。半年以内にまた海外行くよあんたは」

母国に戻れない通告！！

半年以内に海外に行く金はどうなるんだと思ったが、まあそこらへんは曖昧のままにしておこうと聞かずにいて、しかし予想外の結果に度肝を抜かれた。

ま、住めるところは日本だけじゃないしな。人間砂漠でも住めるしな。でも、日本がいいんだけどな。ま、いいか。

たかが占いだけど、あの爺ちゃんに言われると、ああ、そうなのかもなあ、って気になる。そ

ういうオーラがある。それが昔から人々に信頼されて、（軽く疑問だが）病院より先に訪れたりされる所以であろう。

なぜかまた来週来るように言われた、次はいつになったらジャッキー・チェンに会えるのかを聞いてみたいと思う。

## ネパールぶっちぎり日記 vol.2

---

カトマンズ滞在も早2週間ちょい、しかし観光地に赴いたのはほんの2回。そりゃ、後から来た成都・卓球朋友のタク君にも、「何してんすか？」のお言葉もいただきますよね。

タメルから徒歩1分の好立地にお住まいのあやみちゃん&居候のきみちゃんの高円寺ドレッドコンビがツートップで、時に同宿のせい君とかも加わり、やいのやいのと、毎日元気に遊んでいます。

買い物ついでに突然寄る、とか、道で偶然会ったからそのまま、とか、携帯がないだけに昭和な合流が愉快です。

今回はそんな小学生の夏休みな生活のひとコマをお伝えします。

カトマンズの街中はといえば、時間かまわずそこかしこで常に渋滞。ちょっとそこバックすりゃよくね？ とか、日本人的思考回路なら冷静に対処できるところを、彼らはそうはいたしません。ネパールだからここは。

カトマンズは今回初めてだし、東南アジアとは人の顔も風景も違うし、人も車も多くて混沌&猥雑な街事情なのに、不思議に違和感も緊張感もなく、ポーっとしながらなんとなく歩いています。

台湾などでの命がけの散歩の成果が今、生かされているようです。

ネパールはお祭りがやたら多くて、この2週間ちょいで2回かぶりました。今回、ネワール族のお正月だかなんだかのティハールというお祭りやりました。

祭開始2日目には、朝から若者が奇声を発しながら国旗を振り回し、バイク3ケツもしくは車の屋根に乗り込み街を疾走するという、どっかの地方都市の暴走族のような騒ぎに。



そんなんを横目に、あやみちゃんの知り合いんちにお邪魔し、おデコに模様描く儀式やってもらいました。



つかびっくりなことに、お昼ご飯のみならず、200ルピー（日本料理屋でハンバーグ定食食える）もの大金をいただいてしまった。お年玉？

突然訪れたどこの馬の骨だかわからないような外国人にも、家族と同じように接してくれて、心底ありがたいと思うと同時に、こんなことをサラッとやってのける懐の広さにショックを受けました。

台湾の友達もそうだったけど、なんだってこんなに他人に対してサラッとあったかいことできるんだろう。あたしもサラッとやってのけれるようになりたい。ムリだな。

数日後、このお家でお料理教室受けてきました。アリサ先生、分量適当過ぎです。でも！



マサラパウダー2種と塩、瓜と干し肉。それだけでこんなに魅力的な一品に！

ダサイ男と太めの女が絡む変なPV観ながら、おいしさのあまりウツカリご飯食べ過ぎてその後まったくお腹がすかず、夕飯のお誘いを断らざるを得なくなりました。

どんだけ夕飯いただいてんだよ。



その後、今後の旅に不要な荷物をうっちゃる為、郵便局に行ってきました。

ああケチらずリキシャに乗るんだったと後悔するも遅し、数日前にひいた風邪で曖昧な体調のまま、ホコリ舞う雑踏の中、サイの角のように進むこと20分。

薄暗いカトマンズ中央郵便局 (a.k.a. GPO) の更に奥の小屋にて手続き。荷物の隅々まで眺められて少し恥ずかしくなったりならなかったり。

ここのハイライトは、荷物チェックと書類作成が終わった後の儀式。荷物を白い布で覆い、縫い合わせたのちに赤い口ウで封印してもらう。その布の上から宛名を書くので、この状態で日本に届くようです。

どこの霊界からの贈り物だよ。

白布に赤い点々が付着した、非常に不気味な荷物がお届けにあがられる瞬間を想像すると笑えるんですが、どうか冷静にお受け取りください。

(追記：受取人によると、郵便屋さんが相当おびえた表情で配達に来たとのこと。ご心配をおかけして申し訳ありません。)

カトマンズからもそろそろ出ないとな。

空気が世界最低レベルで汚いことと、ミカン買おうとしてんのにどの果物売りも無理やりバナナ入れやがることと、ハンバーグが味は完璧なのにまともらずボロボロなことを除けば、カトマンズ、住みやすい街です。

また来るぞ。たぶん。

## 作者・情報提供者一覧

---

### 【作者・情報提供者一覧】

#### 表紙写真

丸山朝陽（まるやま ともあき）

学生時代、バイト先でバックパッカーの先輩と出会い、旅とアジアに興味を持ち始める。

8年間働いた会社を辞め、2009年10月に念願の旅に出る。

カメラ片手にアジア、中近東、中南米を約2年間放浪し2011年10月帰国。

エッセイ 旅ときどき・・・ 本文&写真

鈴木モト

男性 静岡県出身。高校時代、陸上でインターハイ出場。ベストタイム10秒84（100M）

美容師免許、管理美容師免許取得。

MIXIコミュニティー、「鈴木が書く世界一周旅行記が好きだ」2800人突破。

[http://mixi.jp/view\\_community.pl?id=3502328](http://mixi.jp/view_community.pl?id=3502328)

現在、一眼レフカメラ片手に世界を放浪中。

ブログ「地球の迷い方。～世界放浪編～」

<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>

「大沈没」脱出か、沈没か 本文&写真

船橋証考

銀行を退職後、世界一周を達成。もう一周しようかと準備中。

<https://www.facebook.com/masataka.funahashi>

Where the hell is Masa? 世界中でプラトーンしてきた

[http://youtu.be/NL6yA3\\_khiA](http://youtu.be/NL6yA3_khiA)

「旅で使えるアプリ」星座表 本文&写真

ワールドハッカー

元バックパッカー、現在は職業ハッカー。

ブログ『World Hacks!』にて海外旅行関連の情報を毎日発信しています。

<http://bit.ly/WorldHacks>

Brali Vol.1からVol.8まで8連続記事掲載・写真提供。

「旅人からの伝言 特集 コーカサス」コーカサス 本文&写真

私がフィリピン英語留学をする理由 本文&写真

大谷 浩則

猪突猛進のトイレットパッカー。現在世界2周目！フィリピン留学からスタート。

旅のPodcast配信しています！

Podcast:ウィーリーのバックパッカーラジオ 世界一周アワー

<http://tabitabi-podcast.com/sekai1/>

Blog:ウィーリー 海外放浪×地球一周×フィリピン留学 ～実況！旅人アワー～

<http://ameblo.jp/hero23/>

Twitter:@taniwheelie

Chibirockの旅はくせもの 本文&写真

アジア漂流日記 本文&写真

Chibirock

Sigur RosとBeirut巔頂のメタル好きバックパッカー。チベット越えてインドで太って台湾の農家で大豆を選り分けたり。最近結婚したが放浪やめる気毛頭無し。

<http://blog.chibirock.net/>

一本の糸で世界をつなぐチャリの旅 本文&写真

Connection of the Children

<http://coccoconcoc.web.fc2.com>

田澤儀高

横浜国立大学大学院音楽教育専攻一年。ピアノと自転車旅が大好き。小さい頃からチャリで遠出するのが趣味。将来は学校の先生になって音楽の素晴らしさを子どもに伝えたい。そしてユーラシア横断の旅で感じてきたことも。

加藤功甫

横浜国立大学大学院一年休学中。保健体育科専攻。出会いに感謝し、日々邁進中！つながるって楽しい！！自転車旅/ボルダリング/生花/写真/読書/料理…

自炊派の手料理 本文&写真

谷津 達観(やつ たっかん)

料理の道を歩んでいたが、突然夫婦で403日間、35ヶ国を周る世界一周の旅に！！

日本に帰ってきたかと思えば今度は仕事で香港在住決定！！

「家から徒歩一年☆たっかんとじんみの2人世界一周」

<http://ameblo.jp/worldjourney2010/>

エッセイたびたべ 本文&写真

沢井ブルース

旅する武術家 空手では国際大会優勝経験アリ

現在は東南アジアを中心に放浪及び武者修行中

へたくソな文章ではありますが、気楽に読んでもらってBraliの中の「箸休め」的な存在になれたらなーと思ってます

人生、酒と泪と旅と武術 梵我一如 覚有情

【協力】

向井通浩

JAPAN BACKPACKERS LINK 代表・運営管理者。「ハニートラップ研究所」所長。タイマッサージ依存症。ホワイト餃子。バックパッカー新聞編集長。

<http://backpackers-link.com>

<http://www.mag2.com/m/0001521550.html>

小田奉路

海外起業家's EGG主宰

<http://worldsegg.com/>

<http://archive.mag2.com/0001295311/index.html>

【広告】

カオサン東京ゲストハウス

<http://www.khaosan-tokyo.com/ja/>

Maison D'hote Amande chez noriko

<http://amandecheznoriko.web.fc2.com/>

## 編集後記 Fistera

---

編集後記 Fistera

今回の特集 コーカサス。ちょっと冒険しすぎました。なんせ記事が集まらない。表紙写真も集まらない。辺境過ぎると大変だ。かといって「特集 ハワイ」とか「特集 グアム」とかやるわけにもいかず。

Braliの公式サイトがオープンしました！

ぜひご覧ください。バックナンバーなどはこちらでダウンロードできます。

またバックパッカー専用求人サイトもオープンしてます。事業主の方や人事担当者の方は是非、無料求人広告を掲載してくださいね。

さらに！Brali情報ノートというサイトもオープンしてます。オープンしたばかりで情報がありません。お願いですから旅先での情報を書き込んでください。宜しくお願いします。

●公式サイト

<http://brali.net>

○Brali Job バックパッカーだって働きたい。帰国後のお仕事探しサイト

<http://job.brali.net>

○Brali情報ノート 安宿のリアルでナウな情報ノートをウェブ上でみんなで作ってみんなでシェアする

<http://note.brali.net>

そして、Facebookページもやってます！ぜひとも「いいね！」してください。Twitterとは別の情報も掲載してますので。

<http://www.facebook.com/Bralimagazine>

Brali Bizからセミナーを始める企画も準備中です。

「旅、インバウンド、アウトバウンド、海外」等のキーワードで独立や週末起業や副業など検討の方向けに、その方面の識者や経験者などを講師に迎え、セミナーを企画してます。

皆様のご感想などもお待ちしております。ちょっとしたメモ程度でもかまいませんので、感じたこと気づいたことなどお送りください。

<mailto:bralimagazine@gmail.com>



次号予告（2012年10月25日発行予定）

- テーマ「仮）旅人が見た平和」
- Brali Biz 「旅」×「ビジネス」
- 旅で使えるデジタルアプリ
- HANGOVER in the WORLD
- Chibirockの旅はくせもの
- 旅人からの伝言「特集 ミャンマー」
- エッセイ旅トキドキ・・・
- トホホな話
- 一本の糸で世界をつなぐチャリの旅
- 自炊派の手料理
- エッセイたびたべ
- アジア漂流日記
- 旅先の変な日本語
- 海外ボランティア体験談

# 記事と情報および写真の募集要項

---

## 記事と情報および写真の募集要項

次回のBraliの発行予定は10月25日です。

下記の記事や情報をお気軽にお寄せください。ご応募いただきました中から厳選させていただきます。

### ★記事および情報

■テーマ「仮）Peace 旅人が視た平和」重たいですかね？旅をしていて遭遇した平和、感じた平和、見かけた平和。ここで議論はしません。思ったまま感じたまま、考えたことをどうぞ。

→1500字から2000字程度

■旅で使えるデジタルアプリ →旅で役に立ったアプリを教えてください。

■HANGOVER in the WORLD →旅先での酒や酒場にまつわるショートコラムをお待ちしています。

■旅人からの伝言 特集 ミャンマー

→1500字から2000字程度

■変な日本語→海外でよく目にする「変な日本語」。写真とどこで撮影したかを教えてください。

■海外支援団体などの団体さん、活動PRや支援募集などBraliに無料掲載いたします。取り組みなどのPRなどにご利用ください。

■海外ボランティアツアーや海外青年協力隊参加などの体験談を大募集しています。旅行では体験できないことや、秘話などをお待ちしています。

■続かない旅エッセイ→1000字以内のテーマは自由の旅に関する短文を募集します。旅で見たもの、感じたこと、はまったことなど。

→1000字以内

### ★写真

■Brali表紙用写真

ミャンマーで撮影された写真を募集します。

記事投稿および投稿に関するご質問はメールにてお願いします。

brali@gmagazine@gmail.com

投稿フォーム

<http://p.tl/Mi5K>

<http://brali@gmagazine.blogspot.jp/2011/11/blog-post.html>

# 奥付

---

奥付



Brali

●公式サイト

<http://brali.net>

○Brali Job バックパッカーだって働きたい。帰国後のお仕事探しサイト

<http://job.brali.net>

○Brali情報ノート 安宿のリアルでナウな情報ノートをウェブ上でみんなで作ってみんなでシェアする

<http://note.brali.net>

●ブログ

<http://bralimagazine.blogspot.com/>

●Facebookページ

<http://www.facebook.com/Bralimagazine>

●mixiページ

<http://p.mixi.jp/brali>

●twitter

<http://twitter.com/2moratorium>

編集：くりはらのぶゆき

発行：くりはらのぶゆき

## 【Braliの指針】

旅人は、旅をすることにより、その国や地域の人や文化に触れ、体験し、多様な価値観を知り、違いを理解し、享受することができます。

また旅に出てみることで、日本や居住地などの良し悪しや文化、社会、諸問題を見つめなおすきっかけになります。

そんな機会と経験を無駄にせず社会に活かす旅人の可能性を信じています。

旅人を増やし、旅に出る回数を増やし、旅に出る時間を増やすことを目的の一つとします。

そのためにも旅で得た情報や経験（インプット）を表現（アウトプット）する場と機会をメディアで提供し

経験した人とは共有し、経験していない人へは追体験をしてもらいます。

また旅での経験を社会に活かす（例えば仕事や起業あるいは社会貢献やボランティアなど）仕組みづくりを

行ないBraliも社会に寄与します。